

図書館だより

7月号 (令和6年度)

川之石高校図書委員会

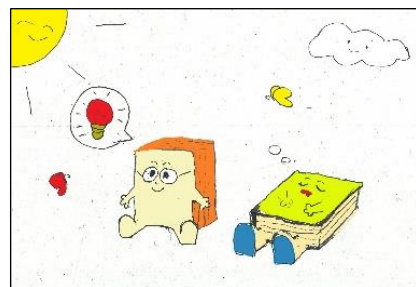


もうすぐ夏休みです。課題の読書感想文を書くため、必ず一冊は本を読むことと思いますが、比較的時間のあるこの時期に、できるだけたくさん本を読んでみましょう。

〈休み中の図書館利用について〉

補習期間中（7月22日～7月31日・8月19日～8月23日）は図書室を開けていますので、学習等に利用してください。

また、夏休み中は図書の貸出をしておりませんので、本を借りたい人は、終業式（7月19日）までに借りておいてください。図書の返却日は、始業式（8月28日）となります。一人3冊まで借りることができます。

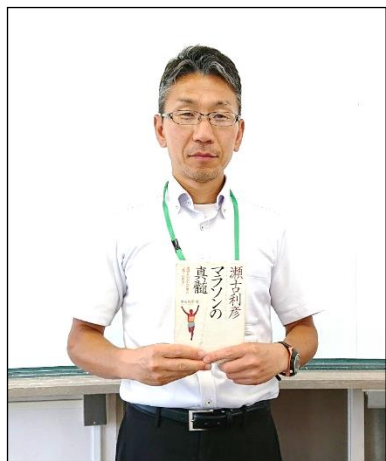


〔新任の先生より〕

「『瀬古利彦 マラソンの真髄』 世界をつかんだ男の“走りの哲学”」

(瀬古利彦 著)

理科 中村 健二 先生



私の息抜きは走ることで、その延長で毎年マラソンにも挑戦しています。読書も人生の楽しみの一つになれば良かったのですが、仕事や趣味に関する専門書や実用書を気が向いたときに読む程度です。この本は、その限られた中の一つで、三十代後半になり体力・気力が徐々に衰え始め、思うような結果を出せなくなったところに、走ることに對して新たな刺激を求め、奮起するために手にした一冊です。

多分、生徒の皆さんは、著者の瀬古利彦を知らないと思いますが、彼は、福岡、東京、びわ湖、ボストン、ロンドン、シカゴなどの国内外のマラソンのビッグレースで優勝するなど、四十年ほど前に活躍した、まさに日本の長距離界の中で世界をつかんだ男の一人です。この本には、著者が築き上げた企業秘密とされるマラソン練習のノウハウや練習メニューが公表されており、次元は違いますが市民ランナーの私にも参考になる内容が多く記されていました。その中に、著者の経験に裏打ちされた“走りの哲学”なる、瀬古利彦の百力条が記されていたので、一つだけ紹介して終わります。

「練習でできないことは、レースでは絶対にできない。練習でできたことは、レースでできる。」

同様の言葉を聞いたことがある人も多いと思いますが、常に本番を想定した練習でしっかりと備え、自信をもって本番に臨みたいですね。何事に対しても。

〔図書紹介〕



『にゃんこ四字熟語辞典』1・2 (西川 清史 著)
 猫と四字熟語のこころ温まる組み合わせ。巻1・巻2の2冊組です。苦手な人の多い四字熟語も、猫の写真集と一緒に覚えられるかも？猫好きな人も、漢字検定を受検して四字熟語で点が取れない人も、ぜひ読んでみてください。

『成瀬は天下を取りにいく』(宮島 未奈 著)

滋賀県大津市を舞台に、主人公成瀬あかりの中学2年生の夏から高校3年生の夏までの間の出来事を描いています。第39回『坪田譲治文学賞』、2024年『本屋大賞』など数多くの賞を獲得しています。続編となる『成瀬は信じた道をいく』も併せて購入しています。



『ホントに食べる？世界をすくう虫のすべて』(内山 昭一 著)



(出版社からのコメント)「あなたは昆虫を食べたことがありますか？きっと、食べたことがない、もしくはそんなこと考えられない、という人がほとんどでしょう。でも、世界では20億人が、2000種類もの虫を食べています。そして、昆虫を食べることが、人類の未来をすくうカギになるのです。あなたの先祖も食べていた、そして、あなたの子孫もきっと食べる昆虫。食わず嫌いは損！虫ごはんの世界を、ちょっとのそいでみてください。」

〔6月 月間図書貸出冊数〕

〈クラス別〉

6月1日～6月30日

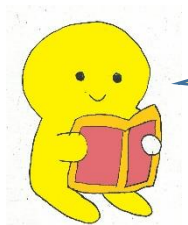
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	合計
14冊	15冊	0冊	6冊	4冊	11冊	9冊	3冊	62冊

〈個人別〉

- 1位 8冊 清水 英磨 (3-2)
- 2位 5冊 清水 美愛 (3-1)
- 2位 5冊 吉本 陽向 (1-1)



6月は期末考査もあったためか本を借りる人は少な目でしたが、新刊図書や寄贈図書もたくさん入っているので、ぜひ借りて読んでみてください。



**私は、時間がなくて本も読めません、
 という弁解を、絶対に信じない。**

塩野 七生 (日本の作家 /1937～)